



消防本部の救助工作車Ⅲ型には どんなハイテク資機材が 搭載されているの？



志太消防本部に新たに配備された**救助工作車Ⅲ型**に積載された主なハイテク資機材を紹介します。これらの資機材を利用することで、各種災害に一層迅速かつ的確に対応することができます。

画像探索機Ⅰ型



倒壊した建物の状況を鮮明に写し出すビデオスコープ。温度センサー、集音マイク、ガス検知により内部状況を正確に把握し、送気チューブでがれきの下敷きになった生存者へ新鮮な空気を送ることができます。

画像探索機Ⅱ型



倒壊建物内部や水中を探索します。音声センサーにより生存者と話すこともできます。

地中音響探知機



地震・爆発・土砂災害等で生き埋め、あるいは閉じ込められた人が発する僅かな音や振動を感知すると共に生存者に話しかけることもできます。

熱画像直視装置



熱を感知し色で画面に映し出します。夜間や煙の中に居る人を発見したり、見えぬ火を見つけることができます。

夜間暗視装置



暗闇でも、昼間のように映し出すことができるカメラ。夜間の探索に適しています。

地震警報器



地震の発生を事前に感知し、警報とライトで救助活動中の隊員に地震の発生を知らせます。

燃やすごみの処理方式を「ストーカ式焼却炉」に選定

～「安全性・信頼性」、「環境保全性」、「経済性」に最も優れた処理方式～

現在稼働中の「高柳清掃工場」、「一色清掃工場」、「リサイクルセンター」3施設の機能を集約した、新たなごみ処理施設となる「(仮称)クリーンセンター」整備事業における燃やすごみの処理方式について学識経験者等を含め検討した結果、「安全性・信頼性」、「環境保全性」、「経済性」の各項目において最も評価の高かった「ストーカ式焼却炉」が当地域に最も適した優れた処理方式であるとの結論にいたりました。

今後は、現在実施中の環境影響評価の予測、評価の基準となる整備基本計画において、処理方式を「ストーカ式焼却炉」として、策定作業を進めてまいります。

計画課 ☎637-9501

▼(仮称)クリーンセンターイメージ図



※これはあくまでイメージであり、配置や外観等は今後検討していきます。

▶▶▶ ストーカ式焼却炉とは

ストーカと呼ばれる火格子の上を徐々に後段に移動して進んでいき、水分を蒸発させる「乾燥」、勢よく燃やす「燃焼」、最後まで燃やしきる「後燃焼」の段階でごみを焼却する方式です。技術導入から約50年の歴史を有し、国内で最も稼働実績のある処理方式です。